

関西詩人協会イベント・2018

# 講演・演奏・朗読の午後

日 時 2018年9月15日(土)  
 午後1時30分～4時30分(開場1時より)

場 所 ドーンセンター 5階 視聴覚スタジオ  
 大阪市中央区大手町1-3-49 TEL 06(6910)8500  
 京阪電車・地下鉄谷町筋線「天満橋駅」より東へ300m

参加費 1,000円

\* プログラム \*

開会挨拶 関西詩人協会・代表 左子真由美

第1部 講演 「みんなちがって みんないい」  
 ～金子みすゞのうれしいまなざし～

講師 矢崎節夫氏  
 \*プロフィール



金子みすゞ

昭和22(1947)年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。  
 大学在学中より童謡・童話の世界を志し、童謡詩人佐藤義美、  
 まど・みちおに師事。  
 平成15(2003)年4月、金子みすゞ記念館(山口県長門市)の館長に就任。  
 平成26(2014)年、長年にわたって「金子みすゞ魅し」に努めた業績と、  
 童謡集『うずまきぎんが』が評価され、第13回童謡文化賞受賞。

いまこそ、お互いを思いやる気持ちを大切に。

朗読 「金子みすゞ童謡集」より 朗読文化の会〔あい〕

休 憩

第2部 演奏 Fragrance Road (フレグランス ロード)

Violin 藤井道子と Piano 木内 薫のユニット

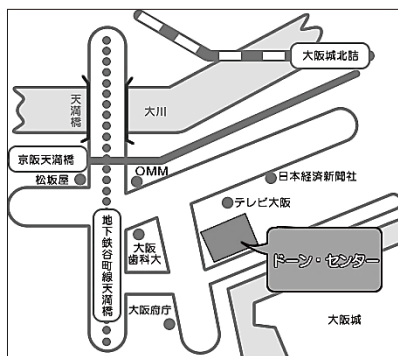
ボカロ曲、アニメ、ポップス、フィドル、オリジナル曲  
 など様々なジャンルを激しくも優雅に演奏する。

\* 演奏曲

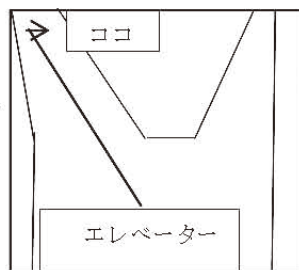
リベルタンゴ、タイスの瞑想曲、ユー・レイズ・ミー・アップ、  
 愛のあいさつ、アディオス・ノニーノ



第3部 会員による詩の朗読



奥の1階正面入り口を左へ。  
 奥のエレベーターで5階へ。



5階エレベーター出口より  
 斜め左へ。

会員以外の方々にも参加を呼び掛けてください。

# 関西詩人協会会報

第90号  
2018.7.1

発行者 左子真由美

- ① 関西詩人協会イベント・2018 講演・演奏・朗読の午後
- ② 火垂るの墓・文学散歩に行きました/訂正記事/イベント2018 五行詩募集
- ③ 新入会員の詩
- ④ 新入会員の紹介/運営委員会の模様/「言葉の花火」の現況と今後の動き/関西詩人協会総会の日時決定
- ⑤ 会員の活動/今後の予定
- ⑥ 会員発行の詩誌/会員の詩書/団体の会報・図書/退会・逝去/ホームページご案内

# 火垂るの墓・文学散歩に行きました

二〇一八年五月十九日に石屋川に集合して先号予告のコースで歩いてきました。当初の計画はお弁当持参でしたが、和比古さんに探していただき、昼食はお店でした。参加者は二十二名でした。

漠然とした文学散歩ではなく、きちんと朗読を聴いて作品の共通認識の上で歩けたのが画期的と思つています。今回は何人かの人にメールで感想を頂いた中からピックアップしました。  
(永井ますみ)

まずは野坂昭如が神戸空襲のときに避難したという石屋川の若葉に満ちた川沿いの道を歩きました。意外に小さな川と思いましたが。川のほとりの「火垂るの墓」の碑の前で写真を撮り、御影公会堂、御影小学校を経て香櫨園駅へ移動。夙川沿いの緑の美しい遊歩道を歩いて、昼食の場所へ。そこでヒレカツランチを食べました。

そこから「火垂るの墓」の朗読場所の夙川公民館へ。五人(市原礼子、青木春菜、田島廣子、大西久代、神田さよ各氏)の朗読者が、気持ちを込めて朗読しました。私はヒレカツで満腹になり、集中力が途切れて、何回も嘔みました。



野坂昭如について、永井さん、榊さんのレクチャーがあり、最後に野坂昭如のヒット曲「黒の舟唄」をみんなが歌いました。これが一番よかったという声も。  
(市原礼子)

「火垂るの墓」のコースを歩くことは西宮在住時からの願い、石屋川からニテコ池周辺へまで歩くのは無理な(阪神電車で移動)ことと承知したうえで、当時を想像しながらの文学散歩でした。香露園の浜まではさすがに遠いでしょうね。もう少し歩けそうな気もしましたが、休憩組が多く、妥当な企画ではなかったでしょうか。

ニテコ池をめぐらずに、「火垂るの墓」は完結しないでしょうが。最後の集合地点である公園、流れ解散になったのが残念でした。急ぐほどの時刻でもなかるうにと、いと悲し。  
(速水晃)

松林が一番の魅力でした。故郷では松に囲まれて育ったので、松を眺めるとほっとします。松や桜やあたりの大木は、震災や、震災をどのようにしのいできたのか、地の下のうめき声を聴くような思いで歩んだことでした。震災後復興をしない地域の事を聞いておりましたから、複雑な思いもあります。

野坂昭如のみと言わず、当時の作家、映画監督などの発言は、本音で語られ魅了されたものです。「火垂るの墓」は文学であって、実際はもっと悲惨だったと思います。野坂氏が語った文書を読んだ記憶があります。  
(西きくこ)

はじめて文学散歩に参加しました。最後はニテコ池周辺を、戦災孤児になった幼い「節子」と「清太」が住み着いた横穴塚を探してゆつくり散策。池の周りは、名次神社、桜並木、松下幸之助氏の大邸宅、落ち着いた住宅街、西宮震災記念碑公園

などが取り囲む。豪邸の前では、警備の方に声をかけていたたくという楽しいエピソードも。そう言えば、ニテコ池のニテコとは、「土を練ってこい」が語源だとか。

ついに、横穴を確認することはできなかったが、空間の中の閉じ込められた時間をほどこき、歴史を練り直すような、時間を過ごすことができました。  
(北村真)

戦争中の景色とあまりにも違い、想像力を使いながら歩きました。見えなくなったものを見る力が文学には必要ですね。  
(神田さよ)

## 参加者名

青木春菜、市原礼子、岩井洋、大西久代、奥村和子、和比古、神田さよ、北村真、榊次郎、齊藤明典(奥様と)、園田恵美子、田島廣子、釣部与志、永井ますみ、西きくこ、野口幸雄、速水晃(外部)、原圭治、山下俊子、吉田定一(22名)

## \*訂正\*

第88号の住所変更の間違ひがありました。  
森下和真 〒603-8377 京都市北区衣笠西御所ノ内町6 いしはら荘2-C (「西」が抜けていました)

## \*イベント2018

### 五行詩募集

テーマ「わが町」です

あなたが住んでいる町の風景や温かい触れ合いのことなど、自慢のわが町を五行に思いを込めて下さい。同封のハガキで応募してください。  
当日のプログラムに掲載します。

新入会員の詩

たね 犬飼愛生

さくらんぼのたねを  
新しい庭に埋める

いつ、さくらんぼになるかなあと  
地面を覗き込むから  
君が大人になって、もしかしたら  
おじさんになったところかもという  
と  
ぼくもおじさんになるの？ と  
えいえんの少年はいう

今日、ダンゴ虫ゲットした！ とポケットから  
丸まったそれを取り出すから  
やったね！ と目を細めてやると  
やったねは埋めたら育つ？ という

君のなかにたくさん埋まっている  
やったね  
いつばい お水あげるよ

希求のエロス 中地 中

ああ神よ  
我にも神のお恵みが賜われるのであれば  
この私意を鍛造して  
風雨を吹き飛ばす強固な意志に化身を……  
もしも手遅れだとしても  
最期の通告は……

私の人生は 唯一無二の  
真理を探求すれど 人間という  
機械は脆弱の城郭に嵌り 精察する術は終生 未成熟な言語

の引力に閉じ籠る

唯一の武器は陳腐の五感 成長の羽根を切り捨てた兵器  
過去という古沼に溜まる生は怨嗟の空砲を打ち続けてきた

見えざる外界は イデアを嘲笑する向こうは  
いかなる風景が広がるのか 人間の機械には知る由もないの  
か

交信の法灯は五感と人間が叡知の言語 ならばせめて  
我だけの『エロディヤード』をこの手に掴み これだと高ら  
かに

天意よ 思ひしれと 夢の中に覚醒して その造形を鮮明に  
描きたい しかし  
揭示する絵具は藪の中 しかし せめてこれだけは  
発芽させねばならない たとえ人間という機械であろうとも  
永遠の闇に沈む前に

月に吠えた 野口幸雄

大学教授の還暦祝いが催された その場で  
「齢六十ですか」と言ってしまった  
よわい？ 物理学の教授はご存知なかった  
集まっていたみんなもだんだん どんどん知らないこ  
とになる

パーティーは楽しく進んだ  
顔で笑って 心で泣いて  
座を白けさせることはいたしません  
これが大人の流儀です

宴会もお開き  
夜風に吹かれると淋しくなってきた  
月までしらすらしくて 俺をみている  
俺は只のサラリーマンですよ

教授がなんでも知っている訳ではない  
みんな馬鹿か それとも臆病者か  
日本では 昔から「よわい」というんだわい

日が暮れる前に たひらこうそう

夕陽をあびながら  
降りそそぐ落葉が伝える

山のことば  
空のことば

きのうも きょうも  
日が暮れる前に流れてくる

山のことばや  
空のことばに

ときどき  
耳を傾けてみよう

扉 山本由美子

待つ人のいる扉  
気配のない扉

笑い声のもれる扉  
押し黙る扉

ボタンと閉まる扉  
カチリと響く扉

ふたりを分かち扉  
ふたりを守る扉

過去を遮る扉  
夢を繋ぐ扉